



子どもの生活基盤守る仕組みを<3 1 1次世代塾>

2021年09月13日 06:00

東日本大震災の伝承と防災の担い手育成を目的に河北新報社などが開く通年講座「3 1 1『伝える／備える』次世代塾」第5期は11日、第6回講座をオンライン方式で実施した。貧困、不登校などの困難を抱える子どもと家庭を支援するNPO法人アスイク（仙台市）代表理事の大橋雄介さん（41）が「震災直後の学習支援の現場から」と題して講義し、大学生約50人が受講した。

アスイクは震災発生翌月から、仙台市、石巻市、多賀城市、宮城県亘理町の避難所で子どもたちに勉強を教えた。被災世帯が仮設住宅や賃貸住宅を借り上げたみなし仮設住宅に移った後も、学習支援を続けた。

大橋さんは被災地の課題の一つとして「震災前は見えにくかった子どもや家庭の問題があぶり出された」と指摘。震災前から不登校だった小中学生が学校再開後も、日中に避難所で寝ていたり、仮設住宅の広場で遊んだりしていたという。

震災の教訓として「学習支援を入りに問題を見つけ、対応することが大事だった。日頃から生活基盤の弱い人たちが困りにくい社会を作っておくことが有事のセーフティネットになる」と訴えた。



オンラインで被災児童の支援について話すアスイク代表理事の大橋さん



指さし会話シート
ダウンロード

第97回むすび塾での聴覚障害者や支援者の意見を基にリニューアルしました。自由にダウンロードしてお使いください。



[全ての写真を見る](#)

関連タグ

[いのちと地域を守る](#) [社会](#) [宮城](#)

関連リンク

「命のらせん階段」で社員研修 防災の日に教訓伝える

臨機応変な対応必要 元校長が避難体験紹介<3 1 1次世代塾>

住宅再建 2割が市外 気仙沼、東松島の被災者 都市部への流出加速

旧気仙沼向洋高を視察、津波の威力知る<3 1 1次世代塾>

土石流から命を守るには？ 災害情報を活用し、早めの避難を

[河北新報のメルマガ登録はこちら >](#)

この記事を読んだ人にオススメの記事&コンテンツ